

令和4年度 病害虫防除技術情報 第7号

令和4年9月22日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

ダイズに発生するハスモンヨトウ以外のチョウ目害虫について

大豆の葉を食害するチョウ目害虫について、本年はハスモンヨトウに加え、「ミツモンキンウワバ」が多発しています。本虫は、シャクトリムシ状に歩行し、終齢幼虫では摂食量が増加し、葉の太い葉脈を残して急激に食害が進みます。本虫のダイズでの確認は昭和54年（1979年）が最初ですが、本年のような多発生を確認したのは初めてであり、気象予報によれば、10月も気温が高く、引き続きチョウ目害虫の活動に好適な気象条件が続くと予想されております。

つきましては、ハスモンヨトウの防除の際、本虫の発生状況に注意してください。

【作物】ダイズ

【病害虫】ミツモンキンウワバ（チョウ目ヤガ科）

【特性】

1 形態

本種はヤガ科キンウワバ亜科に属し、開張^{*1}は雄雌ともに34~35mmである。前翅にある銀紋はU紋と丸紋が離れており、ほぼ同大であることで近似種との区別が可能である（図1）。

蛹は緑色で、薄い繭の中で蛹化する（図2）。

幼虫はA3とA4の腹脚を欠くためシャクトリムシ状に歩行し、体は白みを帯びた緑色で、白く細い気門下線が明瞭、背面には白い白条が数本ある（図3、4）。

※1 翅を左右に広げたときの両方の翅の先端から先端までの長さ。

2 生態

本県において、成虫は5月上旬から12月上旬まで記録があり、年数回発生すると考えられる。九州において、本種は各態において休眠性をもたず、越冬は困難で越冬可能地域から飛来している可能性があるという報告がある一方、フェロモントラップによる調査で12月~3月に成虫が捕獲されたことなどから越冬の可能性が高いという報告があるので、越冬の可能性については今後確認する必要がある。成虫は走光性があり、雌成虫は寄主植物に1卵ずつ産付する。蛹は、寄主植物の葉裏に薄い繭を作って蛹化する。幼虫は、5齢または6齢を経て蛹化する。

3 寄主植物

ダイズ、ダイコン、キャベツ、ニンジン、チョウセンニンジン、ワタ、ミゾソバ、シネラリアなどが確認されている。

4 被害状況

幼虫は、ダイズの太い葉脈を残して食害する（図5）。食害が激しい場合は、ダイズ全体が白く見えるので遠くからでも被害が確認できる（図6）。

5 国内の分布および被害状況

本虫は、北海道から九州・沖縄まで分布する。また、ダイズにミツモンキンウワバが多発生した事例は、昭和54年（1979年）に佐賀県と長崎県で、平成2年（1990年）に宮城県で報告されている。

【大分県農林水産研究指導センター農業研究部 原図】



図1 成虫



図2 繭の中の蛹



図3 終齢幼虫（側面）



図4 終齢幼虫（背側面）



図5 幼虫によるダイズ葉の激しい食害



図6 幼虫によるダイズの被害畑